

令和4年度三重県臨床検査技師会
精度管理報告会
一般検査
(尿定性・便潜血)

令和4年 12月 11日

尾鷲総合病院 検査部

村嶋宏子

調査項目

1. 尿定性（蛋白・糖・潜血）
2濃度・・・尿A・B（栄研化学）
2. 便中ヒトヘモグロビン定性・定量
2濃度・・・便A・B（栄研化学）

評価基準

1. 定性項目：蛋白・糖・潜血

目標値・・・A評価

1段階の濃度差・・・B評価

2段階以上の濃度差・・・C評価

2. 便中ヒトヘモグロビン（2濃度）

定性値評価

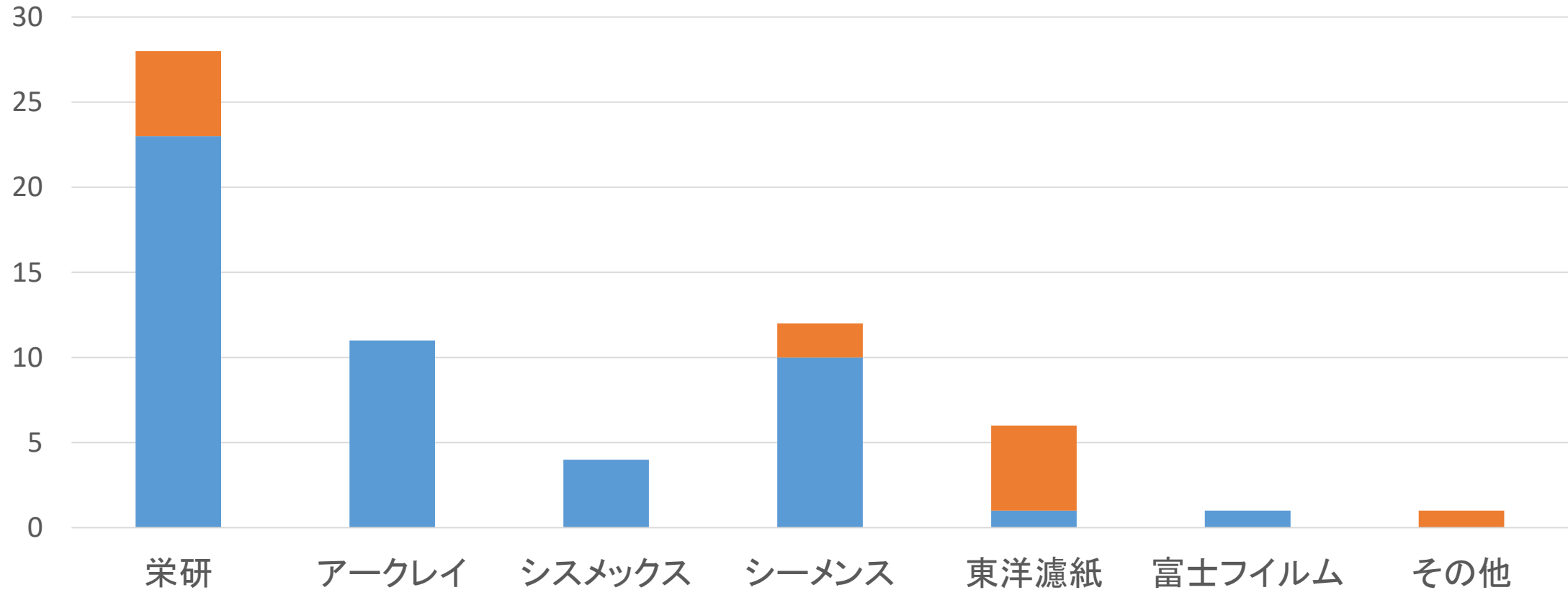
定量値の平均値より評価

（定量値は評価対象外）

結果報告 尿定性

メーカー別使用状況(件数)

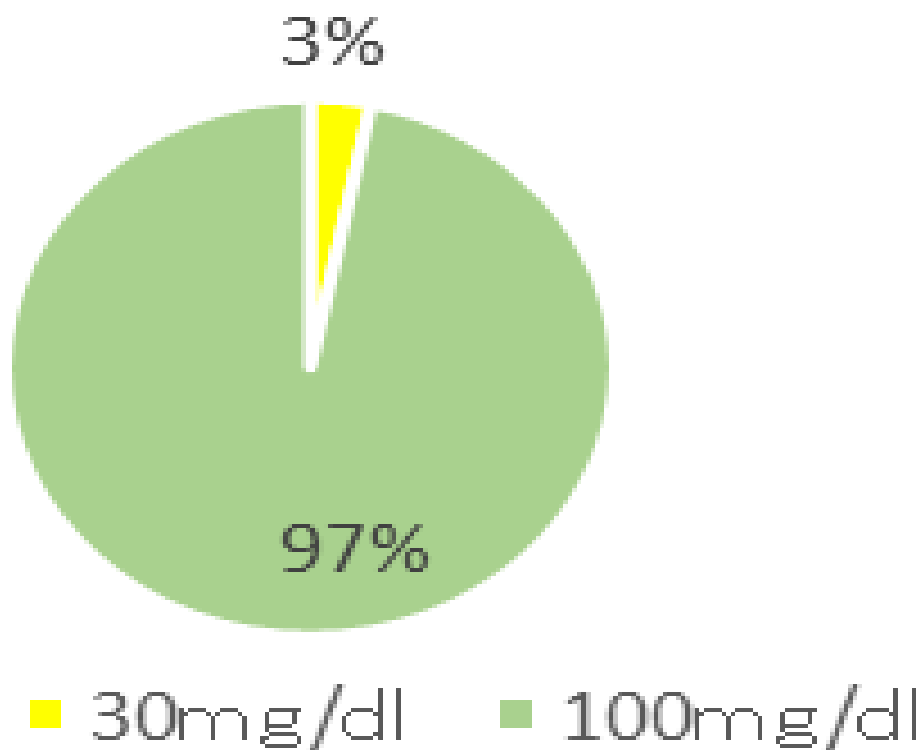
■ 測定機器 ■ 目視



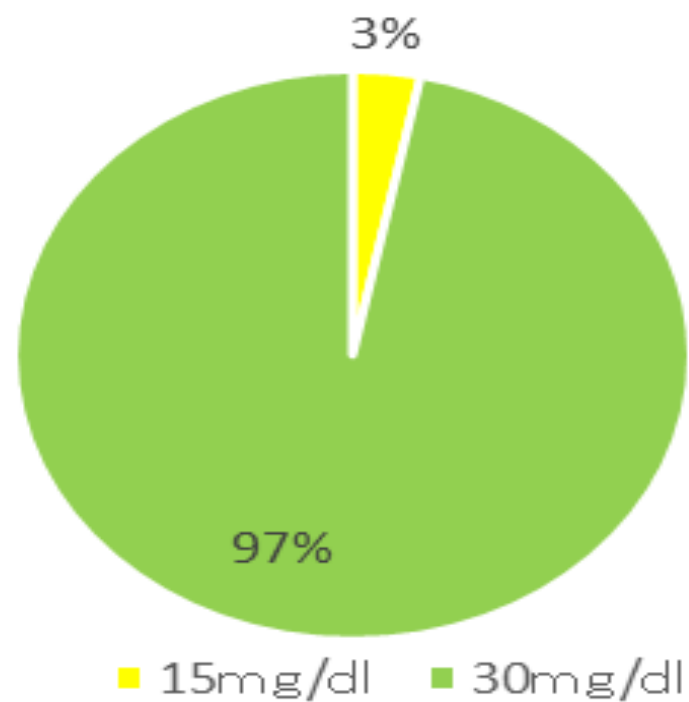
1. 尿定性

①蛋白

尿A
目標值100mg/dl

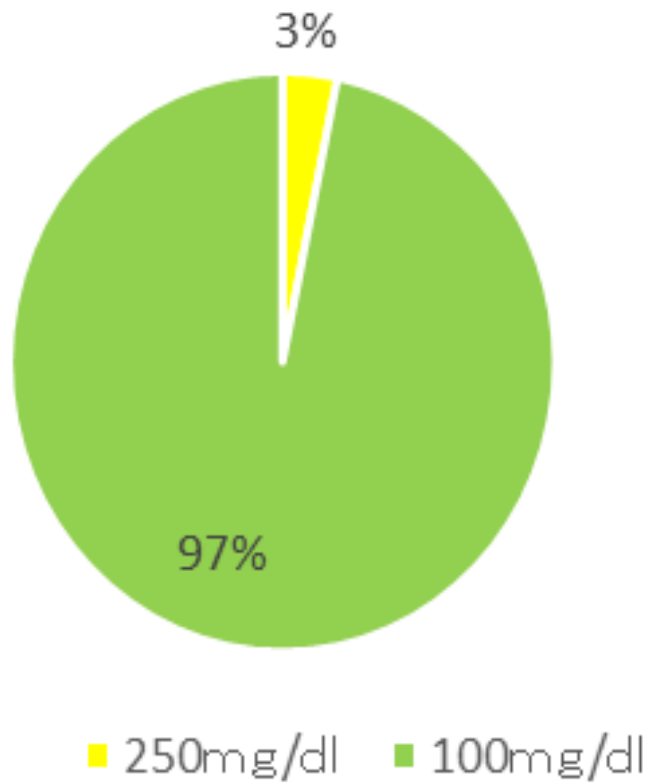


尿B
目標值30mg/dl

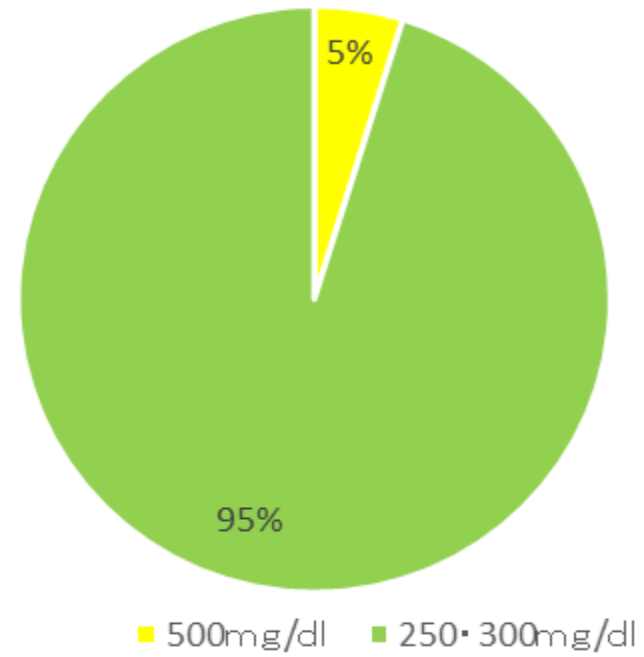


②尿糖

尿A
目標值100mg/dl

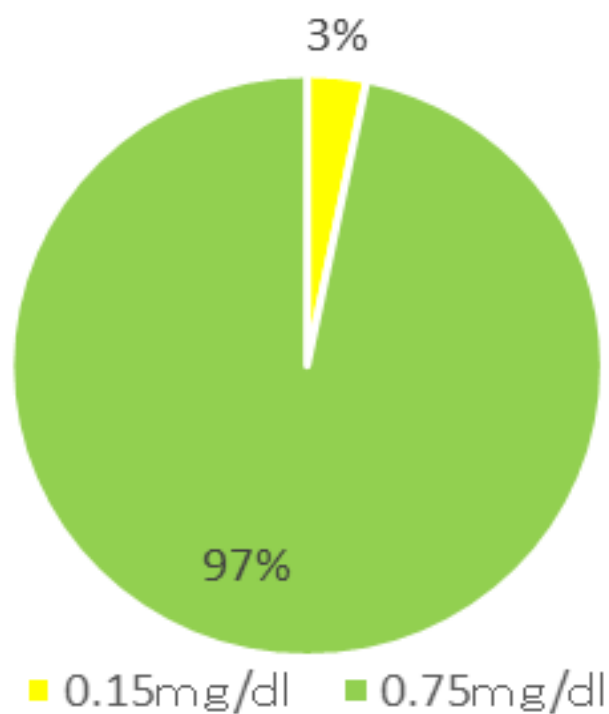


尿B
目標值250・300mg/dl

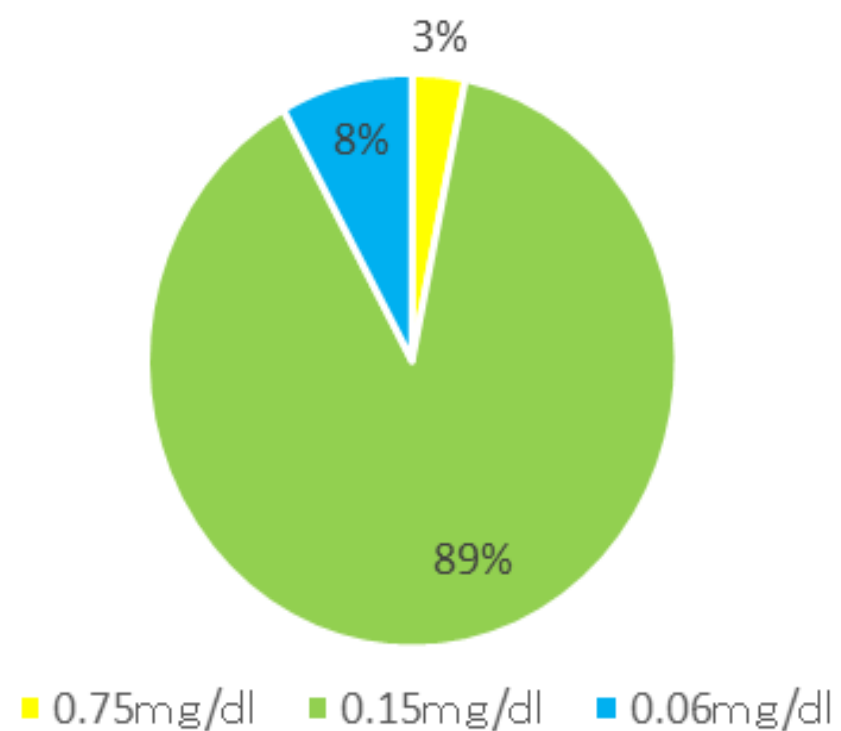


③尿潜血

尿A
目標值0.75mg/dl



尿B
目標值0.15mg/dl



便ヒトヘモグロビン定性:全施設正解

① 試料 A

定量による平均値

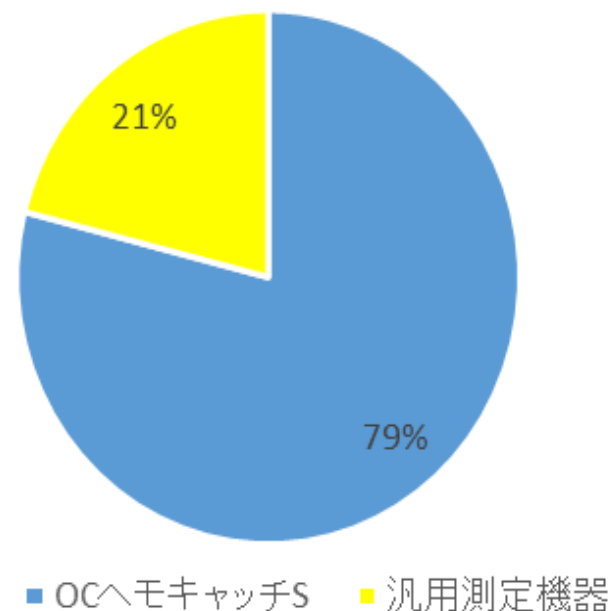
347.7ng/ml

② 試料 B

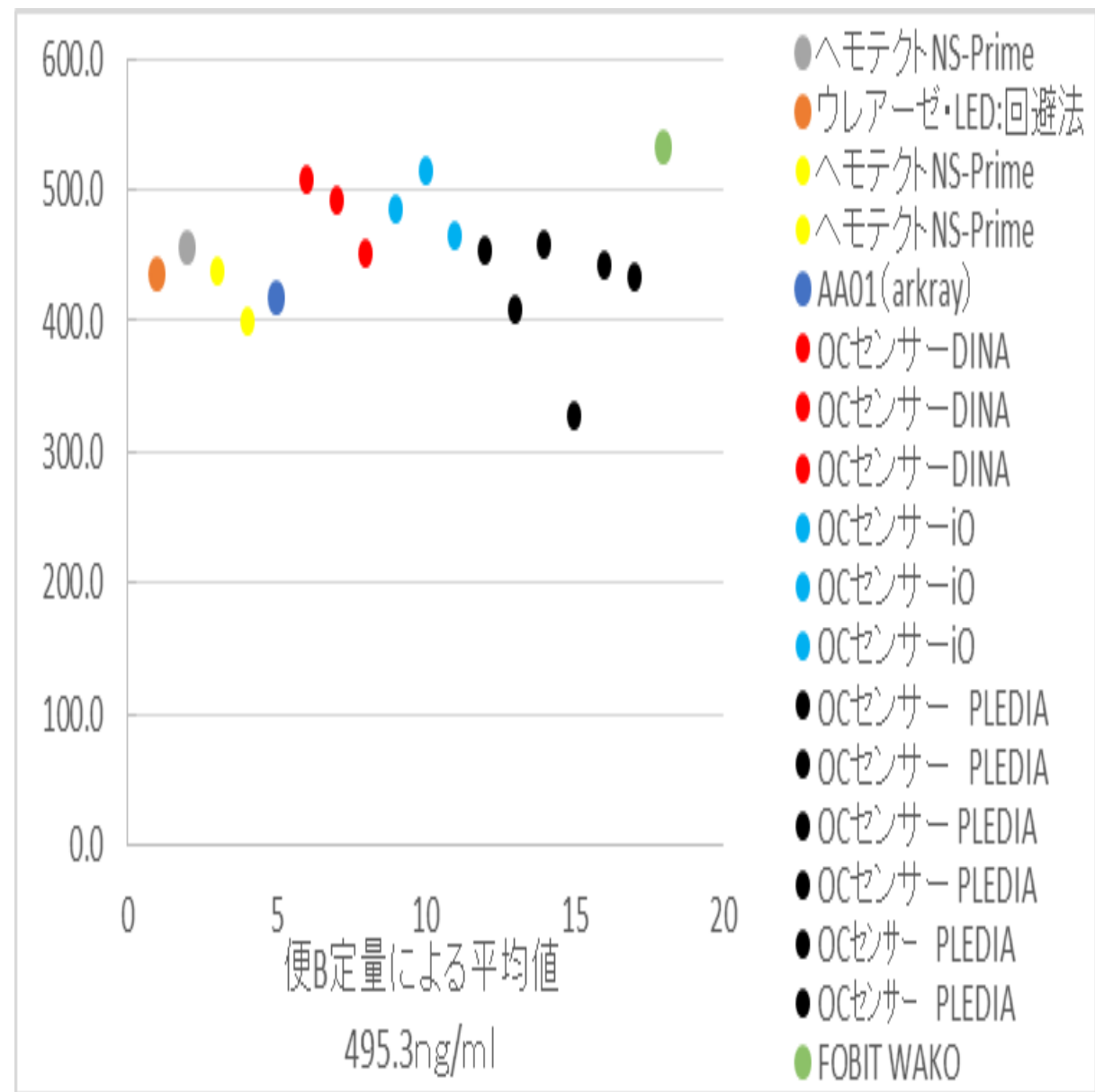
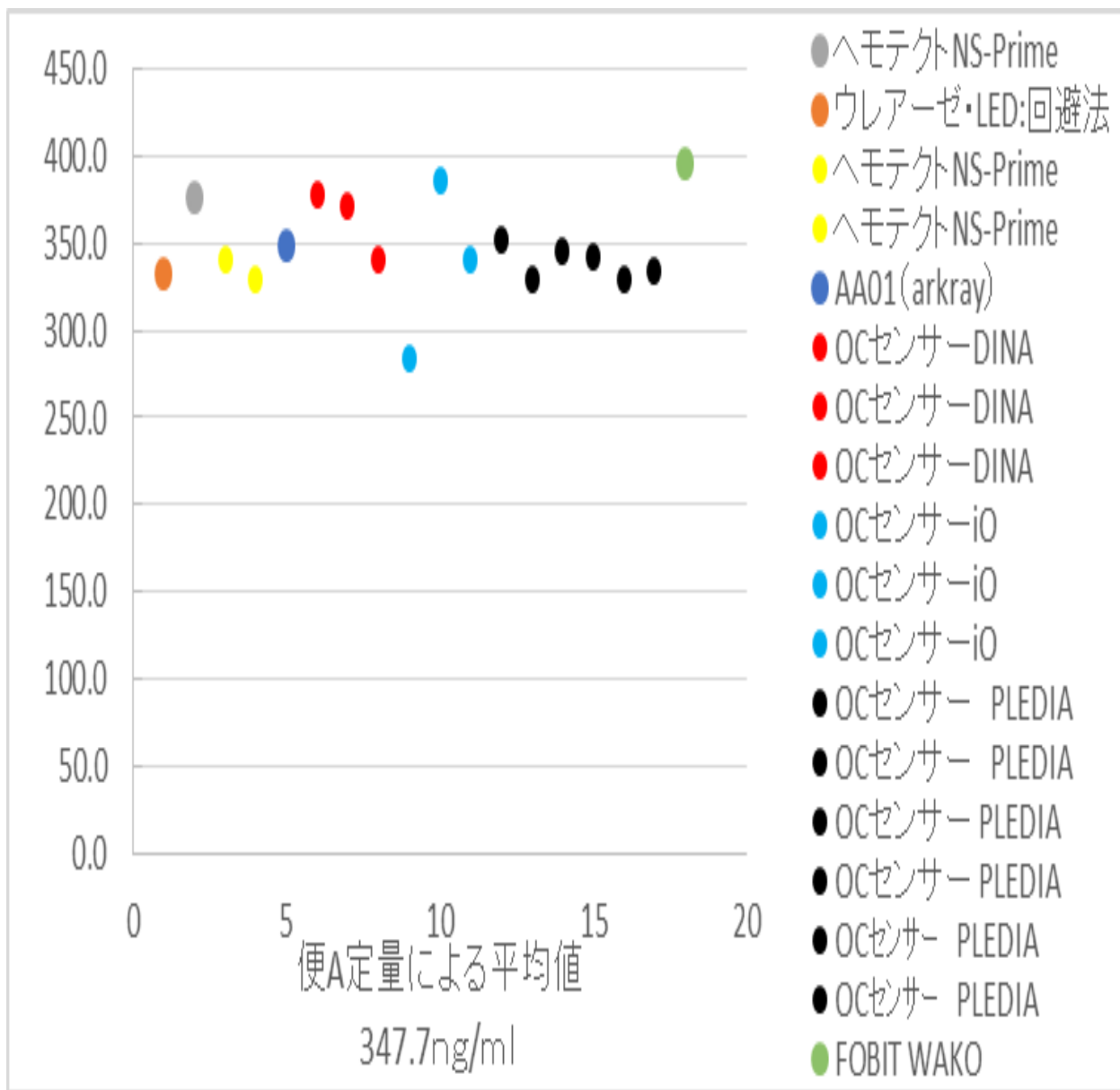
定量による平均値

459.3ng/ml

メーカー別使用状況(件数)



定量による平均値 メーカー別使用状況（件数）



手引書より（便中ヒトヘモグロビン使用試料 擬似便2濃度）

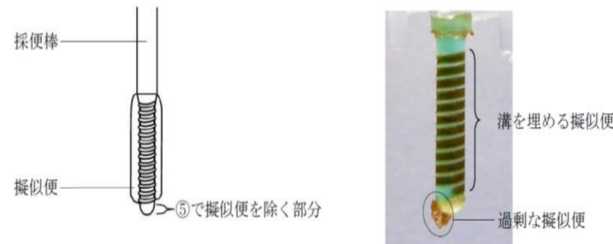
（測定するまで凍結保存してください）

【使用法】

- ① 擬似便を解凍し室温に戻すため、擬似便容器を冷凍庫から室温に出し、1時間静置する。
- ② 擬似便容器を開け、擬似便中のヘモグロビン濃度を均一にするために、採便棒以外のもの（ピペットチップなど）で容器内の擬似便を十分にこね混ぜる。
- ③ 採便容器から採便棒を抜き取り、擬似便に採便容器の液が混入することを防ぐために、採便棒についた液をティッシュなどで拭きとる。
- ④ 採便棒で擬似便を混和しながら、(図 1、栄研化学の場合)のように採便棒先端の溝が埋まるように擬似便を取る。

（各社別採便法の注意点に留意すること）

- ⑤ 採便棒の最先端の溝がない部分に付着した擬似便は採便容器に採便棒を戻す際に擦り切り部で除かれないため、規定量よりも多くの擬似便が採便容器の液中に入る恐れがある(図 2)。このため、採便棒の最先端溝がない部分に付着した擬似便は、疑似便容器の縁部分もしくはティッシュなどに擦り付けて取除く。



(図 1) 擬似便採取量の目安 (図 2) 擦り切後の採便棒様子 (不適切な例)

- ⑥ 採便容器に採便棒を戻し、キャップ閉める。
- ⑦ 擬似便の溶解を促すために、採便容器を縦に強く振る。なお、擬似便の溶解が不十分な場合、溶液が均一にならず正確に測定できないため、4回 / 秒の頻度で 30 秒間、計 120 回以上強く振ることを推奨する。
- ⑧ 擬似便を一様に溶解させるために、採便容器を室温で 30 分間静置する。
- ⑨ 溶液を均一にするために、測定前に採便容器をゆっくり 5～10 回転倒混和してから測定を行う。
- ⑩ 定性検査は検体A,Bを各1回ずつ測定してください。定量検査は検体A,Bを各5回ずつ測定してください。